



医師会シンボルマーク

みんなの健康

『健康と医療・介護』を語る

慶應義塾大学教授(小説家)
荻野 アンナ さん

横浜市医師会
今井 三男 会長

新 春 対 談

明けましておめでとうございます。
います。

長引く不況と雇用不安、凶悪犯罪の増加、恐れていた新型インフルエンザの流行など、昨年は多事多難の一年でした。ことしの干支は寅です。猛虎にあやかり、ぜひ希望と幸せに向かう、飛躍の年になって欲しいものです。

さて、本紙新年号を飾る恒例の新春対談は、ゲストに慶應義塾大学文学部教授で、また小説家でもある荻野アンナさんをお迎えしました。

横浜で生まれ育った、はまつ子さんの荻野さん。大学でフランス文学を教えるかたわら、作家、コメンテーターなど多彩な顔を持ち、幅広く活躍しています。

身近な人のがんと闘いや高齢のご両親のケアを通して、今日の医療や介護問題などにもお詳しい荻野さんと、横浜市民367万人の命と健康を守るために頑張っている横浜市医師会の今井三男会長に、ぜひくばらんに語り合ってくださいました。

No.215

新春号

〈司会〉

横浜市医師会広報担当常任理事
玉城 嘉和

◆健康の仲間たち ボウリングで健康づくり

子宮頸がんを予防するワクチンが
2009年10月に承認されました!

待合室



慶應義塾大学教授(小説家) 荻野 アンナさん



◆家族のこと

玉城 新春対談にようこそお越し下さいました。年の初めですし、明るく、夢のある対談にしたいと思いつつ、よろしくお願いいたします。

荻野さんは生粋の「はまっ子」ですが、横浜はどちらのお生まれですか。

荻野 中区の山手です。横浜の中でも港に近く、異国情緒が色濃く残る場所です。生まれて、育ち、今もそこに暮らしています。

「オギヤー」と産声を上げて以来、横浜での生活は

や半世紀以上。横浜とはもう切っても切れない仲です(笑)。

玉城 お父様はフランス系アメリカ人で、日本人のお母様は画家でいらつしやる。お父様は外国航路の船長として、世界を駆け回っていたようですが、どんな方でしたか。

荻野 私が子供の頃は、長い航海に出ていることが多く、家にはほとんどいません。ですから、父親というよりも、時々、お土産を持って訪ねてくる「よその小父さん」という感じでした(笑)。

それとお酒と女性が大好きで、船で世界中を回って

る頃は、自由気ままに船乗りの生活を謳歌していたようです。

今井 お酒は相当に強かったですか。

荻野 ええ、酒豪でしたね。90歳を過ぎて、脱水症状で入院したことがあります。その原因が何とアルコールの飲み過ぎでしたから。

玉城 画家のお母様も、かなりお酒がいただける口ではないですか。

荻野 昔は相当飲みました。でも、86歳と高齢になりましたから、さすがに今はたしなむ程度です。

今井 おふたりの血を引いている荻野さんも、きつと酒

〈荻野アンナさんのプロフィール〉

1956年(昭和31)、横浜生まれ。75年、慶應義塾大学・文学部フランス文学科入学。78年、パリ第3大学交換留学生として、フランスへ。83年、フランス政府給費留学生として再び渡仏し、パリ第4大学(ソルボンヌ)でラブレールを研究。文学部助教授を経て、2002年4月より教授に就任。

大学で教鞭をとるかたわら、小説を書き始め、91年「背負い水」で芥川賞を受賞。その後、2002年に読売文学賞、2008年に伊藤整文学賞を相次いで受賞。「ホラ吹きアンナの冒険」「空飛ぶ豚」「アンナの工場観光」「蟹と彼と私」「働くアンナの一人っ子介護」「殴る女」など多数の作品がある。



す。やはりフランス生まれのお父様の影響が大きかったですか。

荻野 直接の影響はなかったように思いますが…。

今井 でも、家での会話はフランス語だったわけでしょう。

でも、その割に内臓は健康なんです。数年前に、かかりつけの診療所で胃カメラを飲んだのですが、お医者さまが「毎日あんなにお酒を飲むのに、胃がきれいな過ぎる」と半分怒っていました(笑)。

◆文学への道

玉城 荻野さんはフランス文学が専門で、若い頃にパリの大学に留学もされています。

今井 そうですか。では、なぜフランス文学を？

荻野 16世紀のフランスの作家ラブレールの本を読んで感動したのが、直接のきっかけです。でも、別にフランス



語の原書で読んだわけではないんです。その時はれっきとした日本語の翻訳本でした(笑)。

余談ですが、ラブレールは作家であると同時に、修道士や医者、学者など様々な顔を持ち、当時のフランスで活躍していました。文字通りマルチな才能の持ち主で、とても魅力的な人物なんです。

今井 荻野さんは、小説はいつ頃から書き始めたのですか。

荻野 フランス留学を終えて日本へ戻り、ちょうど大学で教え始めた頃です。実はラブレールは大のダジャレ好き

で、落語みたいなのところもある作家なんです。

ところが、自分の意に反して、ラブレールに関する四角四面の博士論文を書かざるを得なかった。その反動で、何か無性に面白いものを書きたくなりました。それが小説だったわけです。

今井 それで荻野さんの小説には、ダジャレがよく出てくるんですね。ナゾが一つ解きました(笑)。

◆がんとの闘い ◆今日の医療について

玉城 荻野さんは、身近な人をがんで亡くされていま

す。その様子が小説「蟹と彼と私」に詳しく書かれています。彼(小説の中では「バタさん」の名で登場)のがんとの闘いは、壮絶の一語に尽きる。側で支えていらして大変だったのではないですか。

荻野 がんは食道から始まり、さらに肝臓や肺に転移して、暴れ回りました。

そのため、お医者さまの言葉を借りると、毒ガス(抗がん剤)、殺人光線(X線)、ぶった斬り(手術)の3大治療法から民間療法まで、時にはひどい副作用に耐えながら、あらゆる手だてを尽くしました。

しかし、結局がんには勝てませんでした。

今井 あの小説には、手術の情景が実に詳細に描かれています。実際に手術室に入つて、ご自分の目で手術の一部始終をご覧になったのですか。

荻野 はい。執刀医の先生にお願いして、手術室に入らせていただき、つぶさに観察しました。

今井 あれだけの大手術を見ていて、気分が悪くなったりはしませんでしたか。素人の方の場合は、ふつうはまず気持ちが悪くなるものです。中にはその場で気絶する方もいますからね。

荻野 手術を見るのが初めてなら、私も卒倒していたかも知れません。でも、実は「蟹と彼と私」を執筆する数年前に、ゾンビと人間のハーフの話を書いたんです。その取材で、遺体を解剖するところを見せていただいたことがあるんです。

その経験があつたので、たぶん大丈夫だろうと思つたんです。それと手術中は、メスを取るのに必死でしたから、気が滅入っている暇なんてありませんでした。

今井 そうでしたか。それにしても大した度胸です(笑)。

玉城 実際に手術に立ち会つて、何か感じたことはありますか。

荻野 一番に感じたのは、手術がいかに大変な作業であるかということですね。一つの命を救うために、執刀医の先生をはじめ、多くの医療スタッフが連携して、全力を尽くす。その姿が実に感動的でした。

ところが、こうした救命の努力は、実際に手術に立ち会つてみないと、なかなか分かりません。そこで、手術をもっとオープンにして、特に子供たちに見せたい思いではなかったかと思ひます。

今の子は、ゲーム感覚で簡単に人を殺したり、また身近で人の死に直面する機会が少なくなった環境の中で育ち、命を軽く見る傾向があります。

そのため、子供たちに手術の現場を見せ、殺すのは簡単だが治すのは大変と知ってもらうこと。命の教育のの一つとして、そんなことを検討してみてもいいのではないのでしょうか。



横浜市医師会 今井三男 会長

今井 それはいい話ですね。最近はやれ医療ミスだ、患者のたらい回しだ…などと、医師が悪者扱いされて、バッシングの対象になるケースが多く、とても悔しい思いをしています。

しかし、荻野さん自身が体験されたように、医師の多くが大切な命を救うために日夜、医療の最前線で体を張って頑張っています。

手術をオープンにすることは、そうしたことを知ってもらいたい機会になるわけで、医師につきまとう負のイメージの払拭にも役立つはずです。

荻野 お医者さまって負のイメージなんですか？ 私の

イメージではヒーローですけどね。

例えば、昔ならアメリカのテレビドラマで人気を博したベン・ケーシー。あるいは手塚漫画の主人公で、神の手を持った天才的外科医のブラック・ジャック。

今井 それはドラマや漫画の世界の話でしょ（笑）。でも、お世辞でも、そう言っていたけるとありがたい。大変励みになります。

◆介護に生きる

玉城 荻野さんは今、高齢のご両親の介護にも直面されていますよね。

荻野 父が要介護5、母が



要介護3で、ともに介護保険のお世話になっています。

95歳の父は、近くの老人ホームで面倒を見ていただいているので、ひと安心なのですが、問題は母の方です。

あちこちに障害を抱え、歩くのも不自由なのに、頑としてホームヘルパーさんの介護サービスを受け入れません。それを何とか説得して、今は週1回の買い物支援だけ受けていますが、そのほかは自力で頑張り、時々ものすごいエネルギーを発揮して、絵の制作にも取り組んでいます。

今井 それはすごいですね。

荻野 大正女の意地というのか、あの気力には私も脱帽です（笑）。

玉城 介護の実践者として、日頃から心掛けているこ

とはありますか。

荻野 今こたわっているのは、趣味の介護ですね。

介護には休みがなく、気の抜けない仕事です。その役割が、奥さん、娘、姉妹など、女性に廻ってくることも多い。周りに相談相手もなく、一人で担うというのが実情です。

しかし、これでは気持ちが悪くなる一方で、やがて息が詰まってしまう。当然、満足なケアもできなくなるでしょう。それではいけないと思い、私は介護を趣味の一つと考えるようにしました。

今井 それはどういうことですか。

荻野 介護を義務でなく、趣味と考え、楽しみながらやることにしたんです。例えば、父が入居している老

人ホームへ出掛け、勝手に部屋を飾り立てる。口から食べられなくなった父に、目や鼻や耳のゴチソウをと心掛けているんです。室内をいろいろな香りで満たし、お花を飾ったり、音楽を流したりします。

これならケアをする私も楽しいし、五感が刺激されて、父も喜んでくれる。介護する方も、される方も双方が満足する、まさに「二鳥」の介護です。

今井 なるほど。グッドアイデアですね。

◆趣味の世界

玉城 さて、話題を変えましょう。荻野さんとはにかく好奇心旺盛で、旅行や大道芸など多彩な趣味を持つ

慶應義塾大学教授（小説家） 荻野 アンナさん



横浜市医師会 今井 三男 会長



ていらつしやる。とりわけ落語が大好きで、高座名まで

お持ちだそうですね。

荻野 はい。落語は5年ほど前から始めました。本格的に習いたいと思って、金原亭馬生師匠の門下生になり、「金原亭駒ん奈」の名前を付けていただきました。

今井 駒ん奈？ 何て読むのですか。

荻野 「こまんな」です。馬生師匠の弟子は、前座の頃はみな「駒」が付くことになつていて、駒とアンナをドッキングさせて「駒ん奈」になりました。

命名して下さった馬生師匠は、変なヤツが来て「困ったな」と。こまるなア、こまんなア、こまんな、というウケ

(笑)。

玉城 今は二ツ目だそうですが、高座にも出てらつしやるんですか。

荻野 3カ月に一度、野毛のにぎわい座で、落語をやらせていただいています。師匠から古典落語を「好きなようにアレンジしてもいいよ」とのお許しを得ているので、ナゾのフランス人を登場させて与太郎と絡ませ、無芸なりにお客さんの笑いをとる工夫をしています。

今井 せっかくですから、この場で一席聞かせてもらえませんか。

荻野 では、大道芸の先輩から教わった世界一短いフランス小話を一つ。

「やあ、あのフランス人、い

い音立てて、煎餅食つてるよ。パリッ」。お粗末さまでした(笑)。

◆健康法について

玉城 大学教授や作家活動、コメンテーター、多彩な趣味、さらには介護と、荻野さんの日々はとにかく多忙です。健康を維持するために、どんなことをなさっていますか。

荻野 一番の健康法は、人生を思う存分楽しむこと。そのために、自分の楽しみやわがままは出来る限りキープします。例えば、父の介護でどんなに大変な時でも、

時間をやりくりして落語をやったり、大道芸で自分の本を叩き売ったり。

それとボクシングも、私の健康法です。

今井 ボクシング？ 女性がボクシングをやるのは、なかなか難しいのではないですか。

荻野 最近はダイエットなどの目的で、ボクシングを始める女性が増えてるんですよ。もつとも、私の場合はストレスの解消が一番の目的ですけどね。

ふだん、わがままな年寄りや病人を相手にしていると、どうしてもストレスが溜まります。そこで、ジムに通って、サンドバッグを思いきり叩くと心がスッキリします。

もちろん、お酒も。私にとつては、なくてはならない健康の友です(笑)。

今井会長は、健康のためにどんなことをなさっているのですか。

今井 特別なことはしていません。よく歩くことと、寝る前に軽く晩酌をやつて、睡眠をたっぷりとること。それくらいです。

◆新春の抱負

玉城 最後に、今年の抱負を簡単にお願ひします。

荻野 両親が高齢ですから、今年もジェットコースター状態が続くはずですが、目標としては、介護と仕事はキッチリ、私生活はフーテン。寅年だけに、女寅さんをめざします。

今井 横浜市医師会にとつて最大の使命は、横浜市民の命と健康を守ることです。そのことを常に念頭に置きながら、今年も全力投球で医師会の仕事を全うしていく覚悟です。

玉城 では、今年が良き二年になることを願ひ、これで新春対談を終わります。ありがとうございました。



ボウリングで健康づくり 「ストライク!」で 心身もリフレッシュ



医師クラブ・ボウリング部 部長
松井 一雄 さん

現在、部員は男女合わせて23人。ドクターのほかに、準会員の形で家族も参加しています。年齢は50〜80代と様々ですが、ボウリングで結ばれた絆は固く、「和気あいあい。とてもアットホームな会です」と部長の松井一雄さんは語ります。

週1回、診療後の 夜間に練習

活動の柱は週1回、火曜日に開く定例会です。

「エイヤーツ」と気合いの1投。「ストライクがとれた時は気分も最高」と、医師会のボウリング仲間は元氣いっぱいです。

昭和40年代の前半、若者たちを中心に一大ブームを巻き起こしたボウリング。ちようどその頃、横浜市医師会の趣味のサークルとして、医師クラブ・ボウリング部が誕生しました。

木町のハイランドレーンに集合。ただの練習では緊迫感に欠けるため、試合形式で行っています。

勢いよく投げられたボールが、レーン先端の10本のピンを弾き飛ばし、ストライ



クが出ると、拍手が起き、大いに盛り上がります。

定例会では通常3ゲームを行います。汗をかい、終了後はどの顔も晴れ。「診療でたまった疲れやストレスが消え、本当に気持ちがいいんです」と、部では記録係を務める金子浩さん。

定例会のほかに、神奈川県や横浜市医師会の親善ボウリングなど、年間を通して大会も盛んです。

中でも、部員たちが一番楽しみにしているのが、毎年秋の「全日本医師ボウリング連合全国大会」。全国の強豪を相手に、個人戦や団体戦で、日頃の練習の成果を存分に発揮できるからです。今年の第39回大会では、団体戦で見事3位に輝きました。

大会の後は、観光名所を訪ねたり、土地の名物に舌鼓を打ったり、あるいは大学時代の同窓生と旧交を温めたりと、楽しいひと時を満喫し、心と体のリフレッシュに努めます。

チームに新風を。 若手よ来たれ!

ところで、ボウリングの魅力はどこにあるのでしょうか。発足時から部員で、最高齢の高橋進さん(86)はこう断言します。

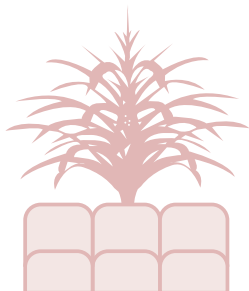
「誰でも気軽にできて、奥も深い。ゴルフに比べると時



間も短く、費用は格安。特に私のような高齢者の健康づくりには最適です。」
診療の合間を縫い、今も週4日はボウリング場に通うという高橋さん。「こんなに面白い健康スポーツはない。ボウリングと共に死ねたら本望」と笑います。
「個人的には、すべてストライクのパーフェクトの達成。そしてチームの夢は、全国大会での団体戦での優勝」(松井さん)と高い目標を掲げて、練習に励むボウリング部の仲間たち。
チームに新風を吹き込むため、若手ドクターの参加を求めています。

あけまして、
おめでとうございます。

毎朝、2匹の犬をつれて散歩に行くのが日課になっている。6時に出発し、川沿いの道を歩き、2つ目の橋まで往復して帰ってくる。ちょうど1時間ウオーキングしたことになる。気分次第ではもう一つ先の橋まで歩くことがある。自分ではこれを、散歩のサービス残業と称し、犬たちは得た気分になれるだろうが、私にしてみればこれは少々しんどい。しかし、毎日、早朝にこの日課を続けていると、実に様々な人々に出会う。私と同じように、犬を散歩している人も多いが、ジョギングしている人、4～5人で会話を交わしながらウオーキングを楽しんでいる人々、詩吟を唱えながら歩いている男性、後ろ向きに歩いているおじさん等々。いずれも高齢者がほとんどで、楽しみながら朝の日課を続けて、朝日を浴びたどの顔も活気にあふれている。新型インフルエンザは、若い世代を中心に感染が広がったが、かかりつけの高齢者は、ほとんど感染していない。高齢者はすでに免疫を獲得しているという見方もできるが、身体管理を怠らない健康なライフスタイルが、ウイルスを寄せつけないのであろう。これぞ“老人力”。高齢化社会に明るい兆しを見た気がする。(SEABAR)



子宮頸がんを予防する ワクチンが2009年10月に 承認されました!

横浜市産婦人科医会 加藤 久盛
神奈川県立がんセンター 婦人科

**子宮頸がんがワクチンで
予防できるって本当ですか。**

はい。子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因で発生することがわかっています。約100種類の型が知られていますが、今回、子宮頸がんになりやすいHPVのうち代表的な16型、18型に対するワクチンが承認されました。このことにより子宮頸がんの発生を70%減少させることが期待できます。

**年齢的にいつごろ
ワクチン接種するのですか。**

HPVは性行為により感染するので、初交前の年齢である11才から14才の女子に対して接種することが推奨されています。15才以上の女性に対しても、追いかけて接種

によりHPVが一度消えた後の再感染を予防できることが期待できます。

**子宮頸がんの原因である
ウイルスは特殊な人が
感染するのですか。**

いいえ。女性の70%は一生のうちに感染していることがわかっています。決して特別なことではありません。

**すでに子宮頸がんになっている
人にも効果がありますか。**

残念ながら、今回のワクチンは予防ワクチンであり、治療を目的としたワクチンではありません。

**実際には、どのように接種し、
価格はいくらぐらいですか。**

6ヶ月間の間に3回筋肉注

射します。また費用は3回で36000円ぐらいです。

**どの医療施設にいはば
接種できますか。**

現時点では産婦人科の医療施設を中心に接種の準備をしています。

**ワクチン接種による
副作用はありませんか。**

ほとんどが注射部位の痛み、はれ、発熱、吐き気などであり、重い症状の報告はわずからです。

**このワクチンを接種することで
HPVに感染しませんか。**

大丈夫です。今回合成されたワクチンは、遺伝子を持たないウイルス様粒子であるため感染性はありません。

**このワクチンは一生免疫が
維持されるのですか。**

このワクチンの臨床試験が始まって7年が経過し高い抗体価が確認されています。20年以上は効果が持続すると推定されますが、今後検討の予定です。

**ワクチン接種を受けたら
子宮頸がん検診を
受けなくても良いですか。**

いいえ。今回のワクチンは子宮頸がんでもHPVの16型、18型によって発生するタイプを予防するだけであり、日本人にやや多いとされる52型、58型による子宮頸がんの発生は予防できません。子宮頸がん検診はワクチン接種を受けたとしても、是非継続してください。

訪問看護ステーション 看護師の募集

横浜市内19カ所にある各区医師会立のステーションで、訪問看護に従事していただく看護師(常勤・非常勤)を募集しております。詳細は次の連絡先へお問い合わせ下さい。
【お問い合わせ先】横浜市医師会事業三課 ☎045-201-7366

tvkテレビ メディカルチェック「みんなの健康」

12月～3月の放送予定

- 12月★18日 高齢者のうつ病(2)
★25日 年末年始の救急
- 1月★8日 会長年頭挨拶
★15日 小児鼠径ヘルニアについて
★22日 小児の肛門周囲膿症について
★29日 がん術後の病診連携(1)
- 2月★5日 がん術後の病診連携(2)
★12日 難聴と補聴器(1)
★19日 難聴と補聴器(2)
★26日 発育期のスポーツ障害(1)
- 3月★5日 発育期のスポーツ障害(2)
★12日 食道がんと胃がんの早期発見(1)
★19日 食道がんと胃がんの早期発見(2)
★26日 小児泌尿器科(1)

毎週金曜日午後1時20分より
(生放送のため、多少前後のずれがあります。ご了承下さい。)

市民講演会

【第1部】

「肌のトラブルを解消するコツ～アトピー性皮膚炎を中心に～」
講師：野村 有子先生(野村皮膚科医院 院長)

【第2部】

肌についての相談コーナー
肌に優しいお化粧品コーナー

●日時：平成22年3月14日(日)10時～12時 ●会場：ワークピア横浜2階
入場無料、事前予約必要。

問合せ先▶横浜市皮膚科医会事務局 ☎045-622-2333

横浜市北部夜間急病センター ☎045-911-0088



横浜市内西部夜間急病センター ☎045-806-0921



休日・夜間に急病になった場合は

休日の昼間はこちらへ

内科・小児科 診療時間：午前9時～12時 午後1時～4時

●青葉区休日急患診療所 ☎(045)973-2707

内科・小児科・歯科 診療時間：午前10時～午後4時

●金沢区三師会立休日救急診療所 ☎(045)782-8785
●戸塚区休日急患診療所 ☎(045)852-6221

内科・小児科 診療時間：午前10時～午後4時

- | | |
|-------------------------------|--|
| ●横浜市旭区休日急患診療所 ☎(045)363-2020 | ●都筑区休日急患診療所 ☎(045)911-0088 |
| ●泉区休日急患診療所 ☎(045)801-2280 | ●鶴見区休日急患診療所 ☎(045)503-3851 |
| ●横浜市磯子区休日急患診療所 ☎(045)753-6011 | ●中区休日急患診療所 ☎(045)622-6372 |
| ●神奈川区休日急患診療所 ☎(045)317-5474 | 改築工事を行うため、10月より当分の間、仮診療所(上野町2-72 上野町バス停下車)にて診療を行います。 |
| ●横浜市港南区休日急患診療所 ☎(045)842-8806 | ●西区休日急患診療所 ☎(045)322-5715 |
| ●港北区休日急患診療所 ☎(045)433-2311 | ●保土ヶ谷区休日急患診療所 ☎(045)335-5975 |
| ●栄区医師会休日急患診療所 ☎(045)893-2999 | ●緑区休日急患診療所 ☎(045)937-2300 |
| ●横浜市瀬谷区休日急患診療所 ☎(045)302-5115 | ●南区休日急患診療所 ☎(045)731-2416 |

毎日の夜間はこちらへ

●横浜市北部夜間急病センター ☎(045)911-0088

都筑区休日急患診療所1階 内科・小児科：午後8時～午前0時

●横浜市内西部夜間急病センター ☎(045)806-0921

泉区休日急患診療所 内科・小児科：午後8時～午前0時

●神奈川県医師会中毒情報相談室 ☎(045)262-4199
【24時間対応】

●横浜市歯科保健医療センター ☎(045)201-7737

休日・夜間救急歯科診療 休日診療：午前10時～午後4時 夜間診療：午後7時～11時

午前0時以降の
内科・小児科の初期
救急診療は
小児拠点病院で対応する

- | | | |
|-----------------|--------------|----------------|
| ●昭和大学横浜市北部病院 | 都筑区茅ヶ崎中央35-1 | ☎(045)949-7000 |
| ●横浜労災病院 | 港北区小机町3211 | ☎(045)474-8111 |
| ●済生会横浜市東部病院 | 鶴見区下末吉3-6-1 | ☎(045)576-3000 |
| ●横浜市民市民病院 | 保土ヶ谷区岡沢町56 | ☎(045)331-1961 |
| ●国立病院機構横浜医療センター | 戸塚区原宿3-60-2 | ☎(045)851-2621 |
| ●横浜市立みなと赤十字病院 | 中区新山下3-12-1 | ☎(045)628-6100 |
| ●済生会横浜市南部病院 | 港南区港南台3-2-10 | ☎(045)832-1111 |

★横浜市夜間急病センター ☎(045)212-3535 内科・小児科：午後6時～午前0時 眼科・耳鼻咽喉科：午後8時～午前0時
★横浜市救急医療情報センター【24時間対応】 ☎(045)201-1199